

河川事業

平成20年度		再評価							
事業名(箇所名)	由良川直轄河川改修事業	担当課	河川局治水課			事業主体	近畿地方整備局		
		担当課長名	青山 俊行						
実施箇所	京都府福知山市、綾部市、舞鶴市								
該当基準	再評価実施後5年間の経過している事業								
事業諸元	築堤、掘削、輪中堤、宅地嵩上げ等								
事業期間	平成15年度～平成45年度								
総事業費(億円)	約592	残事業費(億円)	約592						
目的・必要性	<p>由良川の沿川市街地部では堤防が完成しているものの、未だ堤防の無い区間が多く存在し、現在も梅雨前線や台風などによる洪水により被害を被る恐れがあるため、洪水の氾濫防止について、早急にかつ計画的に対処していく必要がある。このため由良川水系河川整備計画で定めた整備計画目標流量(福知山地点3,600m³/s)(昭和57年8月の台風10号規模降雨)を安全に流下させ、災害発生の防止や軽減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・S28.9 死者行方不明者37人、重軽傷者893人、家屋損壊2,815戸、浸水家屋7,765戸 ・S34.9 死者行方不明者3人、重軽傷者28人、家屋損壊257戸、浸水家屋6,905戸 ・S40.9 家屋損壊379戸、浸水家屋1,945戸 ・H16.10 死者行方不明者5人、浸水家屋1,669戸 								
便益の主な根拠	<p>年平均浸水軽減戸数：252戸 年平均浸水軽減面積：233ha</p>								
事業全体の投資効率性	基準年度	平成20年度							
	B:総便益(億円)	1,631	C:総費用(億円)	542	B/C	3.0	B-C	1,089	EIRR(%)
事業の効果等	<p>本事業の実施により概ね100年に1回発生する洪水を安全に流下させることができる。</p> <p>浸水面積：1,987.8ha → 687.2ha 浸水戸数：6,290戸 → 0戸</p>								
社会経済情勢等の変化	<p>平成16年10月20日に上陸した台風23号は、福知山上流域で流域平均2日雨量276mmの降雨をもたらし、由良川直轄河川沿川の4市1町(綾部市、福知山市、舞鶴市、宮津市、大江町)では、死者5名、浸水面積2,606ha、浸水戸数約1,700戸に達する甚大な被害が発生した。このため、河川事業に対する地元の期待はこれまで以上に大きなものとなっている。</p>								
事業の進捗状況	<p>平成16年台風23号被害を踏まえ、由良川下流部では「由良川下流部緊急水防災対策事業」として、輪中堤や宅地嵩上げによる水防災対策を10年間で緊急的に実施しつつ、併せて道路管理者等の関係機関と連携し、緊急輸送路の確保等を行うことで地域防災力の向上を図ることとしている。現在、平成26年度の完成を目標に、下流部水防災対策を実施する全18地区のうち8地区で事業中であり順調に進捗している。また、由良川中流部では、無堤部対策として連続堤防の整備を、観音寺、戸田、安井、勅使の4地区で実施中であり、特に戸田地区では、築堤のために集団移転を実施するなど、地域の協力を得ながら事業を進めている。</p>								
事業の進捗の見込み	<p>由良川は未だ堤防整備率がおよそ29%と低く、整備計画目標流量に対して流下能力が不足する区間が多く残っているため、引き続き整備を行うこととしている。</p> <p>また毎年、由良川治水促進同盟会や多くの自治会等から整備促進の要望等があり、今後も地元の協力を得ながら事業が順調に進捗する見込みである。</p>								
コスト縮減や代替案立案等の可能性	<p>他工事により発生した土砂を築堤の盛土材として有効活用することにより、全体のコスト削減に努めている。今後も、事業間調整や新技術の利用等を行うことにより、一層のコスト縮減に努める。</p>								
対応方針	継続								
対応方針理由	<p>由良川では、堤防の未整備区間が多く残っており、また、平成16年10月の台風23号による洪水では、大きな被害が発生している。残事業の費用対効果は、3.0となっている。また、事業は順調に進捗しており、地域からも浸水被害の解消が強く望まれている。代替案との比較の結果、現在の計画が妥当であると判断される。</p>								
その他	-								



位置図



由良川流域図